

企業の創造性という新しい未来

令和5年11月1日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

APPLEにおける製品の独創性は、自己企業哲学とともに、自己製品の追求を行うことにおいて、世界におけるコアコンピタンスを有するのである。これらへの考察は機能性と利便性が、技術進歩において独創的な発想とともに、製品提案を有することである。

これらは時代という機会が存在し、それら自己の挑戦は、製品において、自己を提案できることを意味するものである。

これらは技術とシステムの進歩が有する新しい可能性を製品として提案することなので重なる。これらは既存価値観からの脱却において、製品開発への新しい挑戦を有することが、これら製品における新しい可能性の提案を実現できるものである。

これらは、GAFAMやテスラにおいても、等しいのである。これらは技術進歩が与える可能性の製品化という現実なのである。

これは技術進歩のスピードが加速的に速いことにおいて、既存価値観が完全に崩壊しているのである。

これら時代の先端性は必ず独創性において自己を求められ、独創性は独自企業哲学を要求するのである。

これらオンリーワンの経営は、他への従属性や追随でなく、独自企業哲学が独自自己製品の提供を実現しているのである。

これらは発想の柔軟性が、独創的なサービスと製品を実現しているのである。

これらはアメリカという風土が、挑戦や創造性という自己基盤を有することと合致し、時代の切り開いているのである。

これらは、既存価値観における向上という、現実に対して、全く新しい発想における企業構築という、明らかなカルチャーショックを有するのである。